



## 【福岡県】

### 活動報告 1

日本プライマリ・ケア連合学会 福岡県支部会 総会

平成 31 年 1 月 13 日 JR 博多シティ会議室 10F 小会議室

参加者数：24 名 委任状 119 名（県会員 400 名の 3 分の 1 以上として成立）

まずはじめに、福岡県支部長の西野憲史先生の開会の挨拶からはじまり、続いて本学会の理事長である丸山泉先生より“日本プライマリ・ケア連合学会の現状とこれからの展望”についての話が始まった。19 番目の専門医として総合診療専門医の研修制度が今年度より開始となった。総合診療専門医のコアコンピテンシーをしっかりと認識し、能力を身につけた医師を着実に輩出しながら質を保っていくことがこの数年～数十年求められる事であり、このプロセスを通して 19 番目の専門医であるというアイデンティティーの確立にもつながるので頑張りましょうと強いメッセージがあった。その他に、平成 30 年度の活動報告と収支報告を副支部長の茂木恒俊先生が行い、最後の 60 分間で多職種ワールドカフェを行った。医師だけではなく、歯科医、薬剤師、看護師、理学療法士、医学部学生も混ざりながら福岡支部会のこれからのをみんなで考えるいい機会となった。



## 活動報告 2

### 漫画の世界から眺める精神医学

平成 31 年 2 月 24 日 エイムアテイン博多駅前会議室 5E 参加者：47 名

杏林大学精神神経科の今村弥生先生が関東で開催している有名な講演を福岡でしていただける機会に恵まれた。予想どおり 65 名程度しか入らない会議室が 3 人掛けのテーブルに 3 人座らないと入れないくらい超満員になった。今から話す内容は「漫画の評論」ではなく「精神病跡学」の観点からいくつか漫画を紹介いたしますという言葉で講演が始まった。「病跡学」とは精神病理学を手段として用いる学問であり、日本病跡学会という学会が今年で第 66 回を迎えるとのことであった。今回は「漫画の主人公や内容」を「病跡学」の観点で眺めていった。今回紹介された漫画はどれも馴染みのある漫画が中心で「鋼の錬金術師」「キャプテン翼」「ONE PIECE」「NARUTO」「ブラックジャック」「ドラえもん」であった。それぞれの漫画の中で伝えられたメッセージは多彩なため全ては記述できないが、循環理論、レジリエンス、ドラえもんは作者が既に亡くなっているにも関わらず、愛されながら続けられているのか？など面白いテーマであったという間の 90 分間であった。当然ながら、セミナーが終わった後に書籍に走った人が何名かいたと噂に聞いている。病跡学は漫画だけではなく、絵画にも通じるところがあり、次回はアート作品から眺める機会を準備したい。



活動報告 3

PIPC (Psychiatry in Primary care) コース

平成 31 年 2 月 24 日 エイムアテイン博多駅前会議室 5 E 参加者：32 名

元々ACP (アメリカ内科学会) にて開催されていたプライマリケア医に必要な精神科的な対応を習得するコース (PIPC コース) が 2007 年に初めて日本で開催されることとなった。その頃から講師を務めている井出広幸先生を中心に、宮崎仁先生や木村勝智先生の 3 名の講師陣に加え、スーパーバイザーとして精神科医が 3 名 (久我弘典先生、猪狩圭介先生、今村弥生先生) が協力してくれた。また全国よりアシスタントとして 7 名の医師・歯科医が福岡に集まり合計 13 名の講師陣でいつもより豪華なメンバーで PIPC コースが始まった。今回は 4 時間のコースであったためテーマは 3 つであった。① 具体的な問診方法や患者さんの長い話をコントロールする方法 ② 内科医/プライマリ・ケア医にとって馴染みの薄い精神疾患群に関するエッセンスを、現場で会う頻度を考慮して絞りこみ、実践で役立つ診療ツールとしてまとめた「MAPSO」システムを使ってみる。③ うつや不安の薬物療法や自殺のブロック法、精神科医との連携方法について 13 時から 4 時間にわたり濃密な時間を過ごすことができた。



## 活動報告 4

## EBM セミナー in 福岡

「エビデンスに基づいてポリファーマシーを解消する」

平成 31 年 3 月 9 日 久留米大学医療センター 参加者：33 名

国立病院機構 栃木医療センターの矢吹拓先生に講演をしていただいた。ポリファーマシーに関して現状でも定義ははっきりとした定義はないのであるが、一応5剤以上で死亡率や身体障害、転倒、フレイルといったリスクが高くなることが言われている。しかし、高齢化社会を迎えている日本では5剤程度の内服はほとんどの人が内服しているのではないかと感じており、実際には高齢者の50%以上がすでにポリファーマシー状態にあると言われている。その背景に高齢者とMultimorbidityの話抜きに解決は難しい。そして、ポリファーマシーがもたらすアドヒアランス・アンダーユーズの問題などいくつも問題がある。また、不適切な処方減らす基準として、Beers, STOPP/START/老年医学会のガイドラインなどもある。実は最近になり"処方減らそう!"という試みより多職種での動機付けやフォローアップが有効なことが分かってきている。まさに総合診療が得意とする行動変容ステージの把握とそのステージにあったサポートの仕方ができると良い。さらに加えて、行動経済学的なアプローチを生かしたnudge的なアプローチが意外と良いのではないかとこのステージに来ている。ポリファーマシーの解決方法は次のステージに突入しているのではないかと感じた2時間であった。





## EBM セミナー in 福岡

「製薬会社の製品説明パンフの見方・使い方」

平成 31 年 3 月 9 日 久留米大学医療センター 参加者：33 名

横浜市立脳卒中・神経脊椎センターの五十嵐俊先生にご講演していただいた。このセッションでは2つの柱からできている。まず初めに、なぜ我々はチラシに誘導されてしまうのか？ということをも身近なスーパーのチラシなどを用いて体験し、その体験を振り返ることで製薬会社のパンフレットも基本的にはコマーシャルとしての媒体であり、どのように我々にアピールして来るのかについて客観的に見られるようになったのではないだろうか。そして、そのコマーシャルとしての戦略を見破るための「たちつて」という呪文が伝授された。「たちつて」とは、た：縦軸操作（効果量を大きく見せる操作をしていないか確認）、ち：ちっぽけな効果（RRR で大きく見せて、実は ARR が非常に小さくないか確認）、つ：ついせき（At risk の患者数を見ながら効果量を判断する）、て：手つなぎ効果（複合アウトカムの場合には、その内容を確認）、と：トゥルーエンドポイント（臨床的に意味があるエンドポイントが設定されているのかを確認）の5つである。明日からすぐに出来そうな内容だったのではないだろうか。



## EBM セミナー in 福岡

「原著論文の批判的吟味」

平成 31 年 3 月 10 日 久留米大学医療センター 参加者：30 名

東京北医療センター 総合診療科の南郷栄秀先生にご講演していただいた。日本中で講演されている批判的吟味について話をいただいた。今回のセミナーでは医学生・研修医（医学、薬学、歯学）が約 10 名参加していた。大学の公衆衛生の授業の時に何となく学んでいたみたいであるが、実際に論文を目の前にすると正直についていけるか心配と話していた。セミナーが始まれば、みんな南郷先生に導かれるように順調に批判的吟味を進めているのが印象的であった。SGLT2 阻害薬に関する論文（Canagliflozin and Cardiovascular and Renal Events in Type 2 Diabetes. N Engl J Med. 2017; 377: 644-57）を使用した。最近ではほとんどの疾患に対して標準的な治療が決まっていることが多く、新薬とプラセボを比較する臨床試験はかなり減って来ており、同等性試験や非劣勢試験が組まれることが多くなった。まずは RCT の批判的吟味の骨子だけでも伝わったのではないだろうか。医療系の学生にとっても、難しいと思うことは、もっと頑張ろうという明日への力になると思うので、とても有意義で濃厚な 3 時間半を過ごせたのではないだろうか。



【長崎県】

活動内容

■2019年2月9日(土)、2月10日(日)

■日本プライマリ・ケア連合学会第14回九州支部総会・講習会

メインテーマ：ICTのプライマリ・ケア分野での活用

■参加者数210名

<内容>

プログラム(一部抜粋)

大会1日目

●市民公開講座「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について」

座長：瀬戸 信二(春回会グループ地域在宅医療センター センター長)

白髭 豊(医療法人 白髭内科医院 院長)

大会2日目

●基調講演「地域包括ケア及びかかりつけ医機能を推進する医療ICT化の現状と未来」

講師：武藤 真祐(医療法人社団鉄祐会 理事長)

●シンポジウム「ICTを用いたプライマリ・ケア」～遠隔医療と在宅医療～

座長：武藤 真祐(医療法人社団鉄祐会 理事長)

松本 武浩(長崎大学病院 医療情報部 准教授)

●シンポジウム「看護師特定行為～“特定”看護師の活躍～」

座長：井上 健一郎(社会医療法人春回会 理事長)

●ランチョンセミナー

①「日本近代医学の誕生」～黎明期から近代医学教育創始への歩み～

講師：相川 忠臣(長崎大学名誉教授・日本赤十字社長崎原爆病院)

②「認知症の人を地域で最期まで見る技術」

講師：長尾 和宏(医療法人社団 裕和会 長尾クリニック 院長)

### 市民公開講座



### <2日目>

#### 基調講演



#### シンポジウム①



#### シンポジウム②

